

# スペシャルセッション

## 防災対策の埋没効果の計量化と可視化

高木 朗義<sup>1</sup>・岡田 憲夫<sup>2</sup>・矢守 克也<sup>3</sup>

<sup>1</sup>岐阜大学教授 社会基盤工学科 (〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸 1-1)

E-mail: a\_takagi@gifu-u.ac.jp

<sup>2</sup>京都大学教授 防災研究所 (〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄)

E-mail: okada@drs.dpri.kyoto-u.ac.jp

<sup>3</sup>京都大学准教授 防災研究所 (〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄)

E-mail: yamori@drs.dpri.kyoto-u.ac.jp

ハード、ソフトに関わらず防災対策の有効性がなかなか社会に実感として理解されず、ひいてはそのための投資が適切に進まない。理由として、防災対策が功を奏しているために実際の災害が発生していないという、いわば防災の「縁の下の力持ちの働き」が眼に見える形で社会に提示されていないという点が挙げられる。本研究では、このような「縁の下の力持ちの働き」を「埋没効果」と呼ぶとともに、それを計量化・可視化することにより、社会の人々が実感できるようにするための想像力を喚起するシミュレーション技法(イマシミュレーション技法)の開発と多面的な適用を目的とする。

本スペシャルセッションでは、以下の3件の話題提供に基づき、「防災対策の埋没効果の計量化と可視化」における今後の研究課題や展望について広く議論したい。

- ・ 埋没便益研究の課題と展望～公共事業事後評価をヒントに (高木朗義)
- ・ 埋没便益研究への視座:アダプティブマネジメントからのアプローチの可能性 (岡田憲夫)
- ・ 社会心理学から見た埋没便益研究 (矢守克也)

キーワード: 埋没効果, 埋没便益, 事後評価, アダプティブマネジメント, 社会心理学